

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 5 月 26 日現在

機関番号：17401

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2022

課題番号：18K02337

研究課題名（和文）公教育の構想指針原理に基づく実践理論体系の展開に関する研究

研究課題名（英文）A Study on the Development of a Practical Theory System based on the Principles of Conceptual Guidelines for Public Education

研究代表者

苫野 一徳 (Tomano, Ittoku)

熊本大学・大学院教育学研究科・准教授

研究者番号：70507962

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：公教育の設計・構想に際しての、共通理解可能な構想指針原理を持たないために混迷を続けてきた、近年の教育改革・構想、さらには教育学それ自体の問題を根本から克服するための「教育学のメタ理論体系」を体系化した（『学問としての教育学』日本評論社、2022年）。また、このメタ理論体系に基づいた、具体的な研究や実践理論群の例示も展開することができた（「公教育の本質に基づく学びの構造転換の効果測定ツール」2022、等）。

研究成果の学術的意義や社会的意義

上記メタ理論体系は、教育学の哲学部門、実証部門、実践部門、それぞれのメタ理論を解明することで、教育学を高度な総合学問、応用学問へと発展させるものである。国内外の多くの教育哲学者がこれまで挑戦しながらも、十分に成し遂げることができなかつた研究であるという意味において、相応の学術的意義を有しているものとする。また、上記メタ理論体系は、教育構想の指針原理を解明するとともに、教育学がその指針原理に沿った実証研究や実践理論・方法の開発をすることを可能にするため、たとえば国や自治体の教育政策に重要なインパクトを与えることができる。

研究成果の概要（英文）：I have systematized a "meta-theoretical system of pedagogy" to fundamentally overcome the problems of recent educational reforms and concepts, as well as pedagogy itself, which have been confounded by the lack of commonly understood conceptual guiding principles for the design and conception of public education (Pedagogy as an Academic Discipline, 2022). In addition, I was able to develop examples of specific research and practical theories based on this metatheoretical system (A tool for measuring the effectiveness of structural transformation of learning based on the nature of public education, 2022).

研究分野：教育哲学

キーワード：教育学のメタ理論体系 公教育 = 教育学の構想指針原理

1. 研究開始当初の背景

教育改革等、教育構想の際の指針原理の不在(社会的・学術的背景)

公教育とは何か、そしてそれは、どうあれば「正当」といえるか。これは教育学の学問的アイデンティティにかかわる問題であるが、近年教育学は、この問いに明確な指針を打ち出せず、「規範欠如」の問題に行き当たっていると指摘されている(広田 2009)。何をもちて教育の現状を「問題」とし、どのような改革であれば「正当」といえるのか。この指針なき改革は、これまで、教室レベルから行政・制度レベルに至るまで、さまざまな教育現場の混乱を引き起こしてきた。

こうした現状を踏まえて、公教育の本質や「正当性」の原理(本研究では両者を併せて公教育の「構想指針原理」と呼ぶ)を解明する研究が、Guttmann(1987)や宮寺(2004、2008)らによって行われてきた。しかしその研究はまだ途上にあり、公教育の「構想指針原理」の解明は、課題として提起されるにとどまってきた。

この「構想指針原理」欠如の問題は、さらに、教育学諸領域のいわゆる「細分化」の問題を深刻化させる問題も生じさせている。今日教育学は、そもそもどのような教育を構想すれば「よい」といえるかというまさに「構想指針原理」を欠いてしまっているがゆえに、膨大かつ多様な諸研究蓄積を、いかに相補的・協同的、そして整合的に活かすことができるか、また活かす合っていけば「よい」のか、その共有可能な指針・理路を見失ってしまっているのである。教育学の現実の教育構想力が、著しく減退してしまっていると指摘される所以である。

報告者自身の研究の進展

こうした現状を受けて、報告者はこれまで、まず公教育の構想指針原理の解明を行い(2010～12年度科学研究費若手研究(B))、続いて、その構想指針原理に基づく実践理論体系化のためのメタ方法論(教育学のメタ理論体系)研究を行ってきた(2014～17年度科学研究費若手研究(B))。その結果、公教育の「本質」は、「各人の自由 および社会における自由の相互承認の教養=力能を通じた実質化」、そしてその「正当性」原理は、一般福祉の原理と定式化されることを明らかにした。この「原理」は、近年地方教育行政等における指針原理としても取り入れられており、その過程において、その実践的有効性の検証研究もなされている(山口 2011)。続く「教育学のメタ理論体系」研究においては、教育学の3部門、すなわち「目的・規範部門」「実証部門」「実践部門」の3部門を整合的に関連づけるメタ理論体系を明らかにしたが、これによって、上記「構想指針原理」を実質化するための実践理論群を導出するメタ方法論が明らかになった(苦野 2017)。

2. 研究の目的

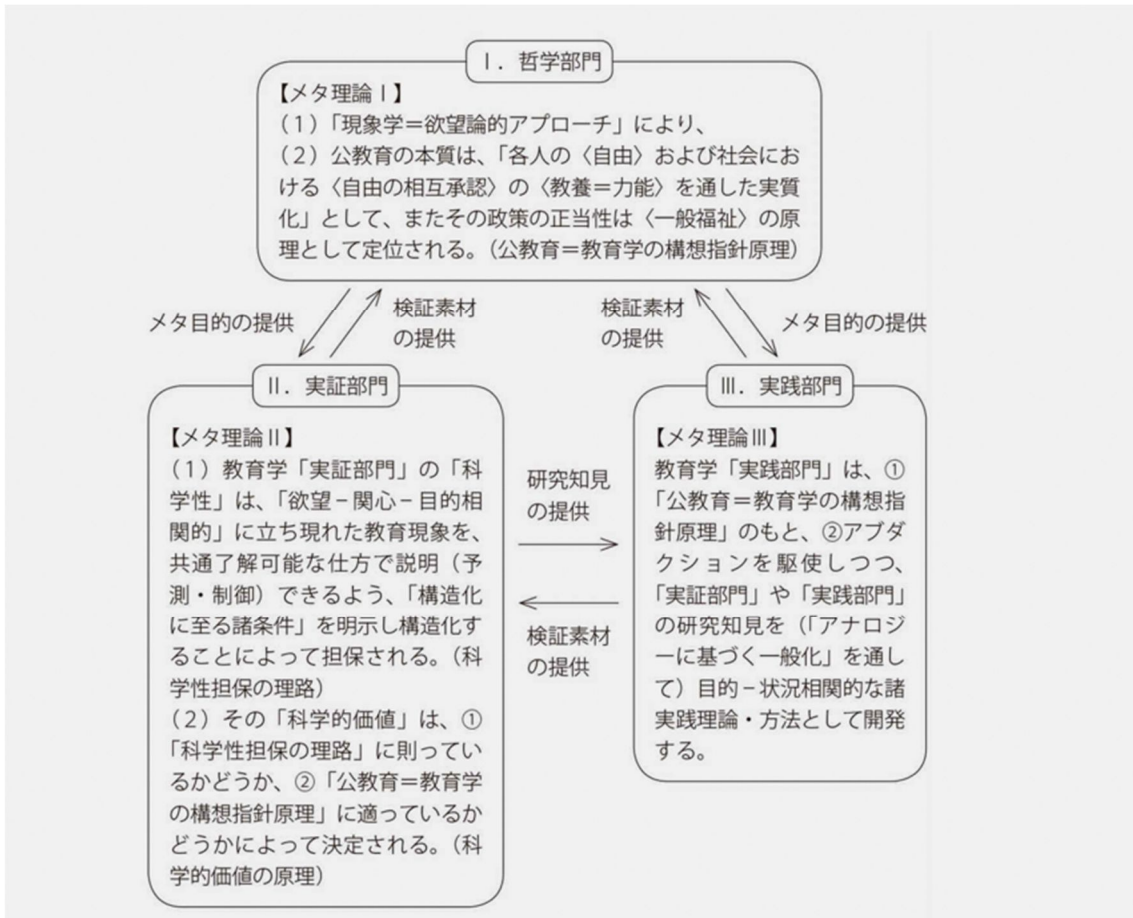
以上から、本研究の目的は次の新たな課題に焦点化されることになる。すなわち、上記「教育学のメタ理論体系」を一定程度完成させるとともに、このメタ理論体系に基づいた教育学研究のあり方、および、実践理論群展開のための理路を例示しつつ明らかにすることである。

3. 研究の方法

上記については、これまでの報告者の研究を進展する。については、公教育の「構想指針原理」として解明された自由 自由の相互承認 一般福祉の各原理が、何をもちて実質化されたといえるか、その指標を解明・提示する。

4. 研究成果

上記の成果は、『学問としての教育学』(日本評論社、2022年)に結実させることができた。その成果を図にまとめると以下のようになる。



上記については、東京都杉並区教育委員会主任研究員・山口裕也氏の協力を得て、「公教育の本質に基づく学びの構造転換の効果測定ツール(2022)の開発を通して果たすことができた。これは、上記メタ理論体系における哲学部門のメタ理論(公教育の本質およびその正当性の原理)および実証部門のメタ理論(科学性担保の理路および科学的価値の原理)に基づいて、「何を、なぜ、どのように測定すれば、それが公教育の本質にかなっていると言えるか」を、「学び」のあり方に焦点化して明らかにし測定ツール化したものである。この測定ツールは、すでに、報告者が総合アドバイザーを務める名古屋市における「ナゴヤスクールイノベーション事業」等において活用されている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計13件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 苔野一徳	4. 巻 48
2. 論文標題 多様で異質な人たちとの共生と教育	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 世界思想	6. 最初と最後の頁 56-59
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 苔野一徳	4. 巻 89
2. 論文標題 そもそも学校とは何かーwithコロナを契機とした教育転換の方向性	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 世界の児童と母性	6. 最初と最後の頁 12-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 苔野一徳	4. 巻 2
2. 論文標題 社会構想のための哲学的思考	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 モノメ	6. 最初と最後の頁 218-231
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 苔野一徳	4. 巻 1421
2. 論文標題 「美」とは何か、そして教育における「美意識」について	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 教育研究	6. 最初と最後の頁 14-17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 苔野一徳	4. 巻 164
2. 論文標題 ウイズコロナのなかでの公教育の役割	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 発達	6. 最初と最後の頁 46-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 苔野一徳	4. 巻 2020
2. 論文標題 教育にとって「言葉」とは何か	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 The 26th Princeton Japanese Pedagogy Forum PROCEEDINGS 2020	6. 最初と最後の頁 301-309
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 苔野一徳	4. 巻 48
2. 論文標題 多様で異質な人たちとの共生と教育	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 世界思想	6. 最初と最後の頁 56-59
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 苔野一徳	4. 巻 89
2. 論文標題 そもそも学校とは何かーwithコロナを契機とした教育転換の方向性	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 世界の児童と母性	6. 最初と最後の頁 12-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 苔野一徳	4. 巻 7
2. 論文標題 「情動所与」の発見とその哲学的意義、および「欲望相関性の原理」の本質的意味	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 本質学研究	6. 最初と最後の頁 105-121
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 苔野一徳	4. 巻 67-8
2. 論文標題 体育における 自由 と 自由の相互承認 の原理	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 体育科教育	6. 最初と最後の頁 58-60
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 苔野一徳	4. 巻 260
2. 論文標題 民主主義の土台としての公教育	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 生活経済政策 269 23 - 27 2019年6月	6. 最初と最後の頁 23-27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 苔野一徳	4. 巻 6
2. 論文標題 自由 および 自由の相互承認 について - 「教育学のメタ理論体系」補論	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 本質学研究	6. 最初と最後の頁 81-94
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 苔野一徳 × 大竹文雄 × 中室牧子	4. 巻 1
2. 論文標題 教育はなにを目指すのか～哲学と経済学の出会い～	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 尼崎市学びと育ち研究所研究紀要	6. 最初と最後の頁 24-42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件 (うち招待講演 1件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 苔野一徳
2. 発表標題 哲学を医療者教育に役立てるには」
3. 学会等名 第14回日本医療教授システム学会総会・学術集会 (招待講演)
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計22件

1. 著者名 一般社団法人終末期ケア協会	4. 発行年 2021年
2. 出版社 一般社団法人終末期ケア協会	5. 総ページ数 200
3. 書名 終末期ケア上級専門士公式テキスト	

1. 著者名 藤原, 辰史, 内田, 樹, 集英社新書編集部	4. 発行年 2021年
2. 出版社 集英社	5. 総ページ数 300
3. 書名 「自由」の危機 : 息苦しさの正体	

1. 著者名 苔野一徳	4. 発行年 2021年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 150
3. 書名 未来のきみを変える読書術：なぜ本を読むのか？	

1. 著者名 ソクラテスのたまご	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ソクラテスのたまご	5. 総ページ数 150
3. 書名 生きるって、なに？ 死ぬって、なに？ -12歳から考える 答えはないけど、大事なこと。	

1. 著者名 河崎，仁志，斉藤，ひでみ，内田，良	4. 発行年 2021年
2. 出版社 東洋館出版社	5. 総ページ数 222
3. 書名 校則改革：理不尽な生徒指導に苦しむ教師たちの挑戦	

1. 著者名 苔野一徳	4. 発行年 2022年
2. 出版社 日本評論社	5. 総ページ数 253
3. 書名 学問としての教育学	

1. 著者名 神谷拓	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ベースボール・マガジン社	5. 総ページ数 328
3. 書名 部活動学 《子どもが主体のよりよいクラブをつくる24の視点》	

1. 著者名 東洋館出版社	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東洋館出版社	5. 総ページ数 176
3. 書名 ポスト・コロナショックの学校で教師が考えておきたいこと	

1. 著者名 佐藤明彦	4. 発行年 2020年
2. 出版社 時事通信社出版局	5. 総ページ数 208
3. 書名 教育委員会が本気出したらスゴかった。 : コロナ禍に2週間でオンライン授業を実現した熊本市の奇跡	

1. 著者名 苫野一徳	4. 発行年 2020年
2. 出版社 NHK出版	5. 総ページ数 126
3. 書名 別冊NHK100分de名著 読書の学校 苫野一徳 特別授業『社会契約論』	

1. 著者名 日本デューイ学会	4. 発行年 2020年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 330
3. 書名 民主主義と教育の再創造 : デューイ研究の未来へ	

1. 著者名 ソクラテスのたまご	4. 発行年 2020年
2. 出版社 学事出版	5. 総ページ数 128
3. 書名 #学校ってなんだろう : "学校"について自由に語ろう	

1. 著者名 竹田, 青嗣, 西, 研, 石川, 輝吉, 岩内, 章太郎, 苜野, 一徳, 平原, 卓, 山竹, 伸二, 行岡, 哲男	4. 発行年 2020年
2. 出版社 河出書房新社	5. 総ページ数 320
3. 書名 現象学とは何か : 哲学と学問を刷新する	

1. 著者名 梅澤秋久・苜野一徳	4. 発行年 2020年
2. 出版社 大修館	5. 総ページ数 274
3. 書名 真正の「共生体育」をつくる	

1. 著者名 苔野一徳	4. 発行年 2019年
2. 出版社 講談社	5. 総ページ数 224
3. 書名 愛	

1. 著者名 苔野一徳	4. 発行年 2019年
2. 出版社 トランスビュー	5. 総ページ数 192
3. 書名 ほんとうの道徳	

1. 著者名 苔野 一徳	4. 発行年 2019年
2. 出版社 河出書房新社	5. 総ページ数 256
3. 書名 「学校」をつくり直す	

1. 著者名 内田良・苔野一徳	4. 発行年 2018年
2. 出版社 武久出版	5. 総ページ数 144
3. 書名 みらいの教育ー学校現場をブラックからワクワクへ変える	

1. 著者名 工藤勇一、苫野一徳	4. 発行年 2022年
2. 出版社 あさま社	5. 総ページ数 232
3. 書名 子どもたちに民主主義を教えよう	

1. 著者名 苫野 一徳、古田 雄一、認定NPO法人カタリバ	4. 発行年 2022年
2. 出版社 学事出版	5. 総ページ数 192
3. 書名 校則が変わる、生徒が変わる、学校が変わる	

1. 著者名 澤田 英輔、仲島 ひとみ、森 大徳	4. 発行年 2022年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 224
3. 書名 中高生のための文章読本	

1. 著者名 田沼茂紀	4. 発行年 2023年
2. 出版社 東洋館出版社	5. 総ページ数 280
3. 書名 道徳は本当に教えられるのか	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------